ニュースレター　27

2013.10

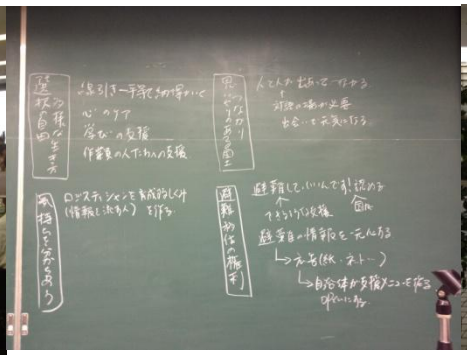
被災地での対話

９月にいわき市で開催された「原発事故子ども・被災者支援法　いわきフォーラム　～支援法を動かすために、いま、ともにできること～」対話の部でファシリテーターを務めました。

☆フォーラムの概要

第１部（2 時間）は、支援法の現状と課題について共有する時間でした。気がついていない方が多いといわれる支援法の時効問題のレクチャーやいわきで活動している方、自主避難している方、いわき在住のお母さんの報告がありました。最後に、参加していらっしゃる市議（6 人）からコメントがありました。

第 2 部（2 時間半）に、「対話の場」がありました。ここで、ファシリテーターをしました。



☆対話できる場に向けて

主催者の一人である、いわき市在住の弁護士さんから、「原発事故以来 2 年半たった今、言えないことが多くなった気がするのでいろいろな想いを吐き出したい」とのゴールを提示されました。その達成に向けて、プログラムを組みました。

☆参加者の感想は？

- こんな対話集会だったらもっと参加したい。
- 気持ち良く話ができた。
- 泣けそうだった。

などなど、ゴールは達成できたようです。ファシリテーターとしてもとても充実した時間でした。

☆このプログラム、気にいっていただいたようで、早速、「旧警戒区域に行ってみっぺツアー」の後の対話で活用してくださいました。

☆第 1 部での市議の方々のご発言には、地方政治の原点を見たような気がしました。そして、第 2 部でのみなさんの対話の場からは、民主主義というのはこういうことから始まるのだなのだなぁと感じました。そこに、ファシリテーションの原点、目指すものもあるのだなぁと。色々な気づきのある深い一日でした。

☆呼んでくださったことに感謝しています。